令和7年度　学校経営ビジョン　　能美市立宮竹小学校

1　経営理念

教職員も児童も「ウエルビーイングな学校を自分たちで創る」ことを目指していく。

そのために、教職員には、高い志と使命感を持って、自己研鑽に努め、経営方針を全体で共有し、主任を中心とした協力・協働の組織的学校運営に主体的に参画していく集団でありたい。

一方、児童には、「ウエルビーイングな学校」を創るのは自分たちであるという意識を持たせられるよう、学びを楽しみ、成長することに喜びを感じられる楽しい学校を共有させたい。

＜宮竹小学校が提供するもの＞「～がい」につながる「笑顔」

・児童には	「向上」と「喜び」	＝学びがい～学ぶ厳しさと楽しさ、やり切る強さ
・保護者・地域には	「安心・安全」と「信頼」	を＝頼りがい～みやつこを育てる協働体・基盤
・教職員には	「責任・自覚」と「誇り」	を＝働きがい～組織として稼働し成果を上げる

2　校　訓

「至誠　勇気　自治」（大正４年校歌制定より）

・「至誠」は、誠を尽くすこと。互いの幸せを考える思いやりの心や行動を身につけること。
・「勇気」は、すべての人の前に拡がる可能性・未来に向かい、自分を信じて挑戦する精神。
・「自治」は、自己調整力をきたえ、個として集団として、よりよい生き方を切り開く逞しさ。

3　教育目標

創造力を働かせ、志を持って、能動的に「考動」し、アップデートし続ける「みやっこ」の育成

4　教育目標の具現化　＜子どもと創る・自分から創る・みんなで創る＞

（1）めざす学校の姿　**＜地域とともにある開かれた学校＞**

・誰もが大切にされ学ぶ喜びが実感できる　登校したくなる学校
・生涯にわたり能動的な学びを展開し　成長する力を育む学校
・家庭・地域と協力して創る「地域の誇り」となる学校

（2）めざす教職員の姿　**＜情報共有・共通理解・共通実践の徹底・凡事徹底＞**

・学校経営計画を理解し、その実現のために組織的な学校運営に主体的に参画する職員
・　誰一人取り残さない、子ども一人一人を理解し育成する使命感を持つ。
　そのために自己研鑽・切磋琢磨する職員
・ワークライフバランスの取組の推進
　豊かな教養・温かな人間関係：笑顔のある職場

（3）めざす児童の姿

み　ずから考え取り組む子	（自治）
や　さしく思いやる子	（至誠）
つ　ながりを大切にする子	（至誠・自治）
こ　ころと体を鍛えやりぬく子	（勇気）

（4）児童の行動目標＜「ウエルビーイングな楽しい学校」を自分たちで創る＞

アップデートし続ける　みやつこ
主体的・協働的に考動する　みやつこ
創造力を働かせる　みやつこ

５　今年度の重点目標と方策

各取組･行事で「目指す児童の姿」と方法を具体的に共有する＝「みやつこ」の実現

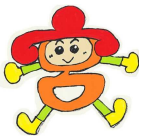
（１）組織的な学校運営　＜チーム学校の推進＞

○　プロジェクトＭを核とした「チーム学校」の実働化と各部会の機能化と充実
　→目標を共有して連携・協働する→　共通理解・共通実践・教師の学び合い

○　高い危機管理意識を持った安心・安全な学校づくり
　→諸課題の未然防止・早期発見・早期対応につながる「報連相」と組織的対応

○　明快な方向付けによる「働きがい」のある職場づくり→　効果的な働き方改革の推進

（２）知　確かな学力を育む＜主体的・協働的で深い学びの実現＞



○　確実なねらいの達成につながる日々の授業改善、**学びの自己調整力の育成**

・　系統的・組織的で実効的な授業改善とその積み上げ
・　「個別最適」で「協働的」な学びの一体的による資質・能力の育成
・　朝学習から家庭学習までの連結による「知識・技能」の確実な習得と読書活動の充実

（３）徳　豊かな人間性を育む　＜自治的活動の推進と心の醸成～信・任・認～＞

○　「生徒指導の４つの視点」に留意した「信・任・認」による「みやつこ」の育成

・　子どもの変容を見逃さない組織「全職員で全ての子どもを」
・　自治的活動・交流活動の工夫による集団づくりの充実
・　「生き方につながる領域」の学び充実による豊かな感性・社会性の育成

（４）体　心身の健康を育む　＜健康で安全な生活習慣の自律＞

○　心の自己調整力の育成プログラムの構築

・個々が目標をもち達成感と意欲を実感できる体育の授業づくりと「１校１プラン」の推進
・望ましい生活習慣・健康保持のための学校・家庭・地域の連携・協働

（５）家庭・地域との連携　＜地域とともにある学校＞

○　学校運営協議会との連携によるふるさとを愛する心の育成・『探究』的な学び」の充実
○　「保（幼）－小－中」の連携による長期的な学校教育力の向上
○　専門教育機関との連携による個の尊重と伸長

2025年度：全職員総がかりの取組として必須なこと

共有された取組について、一枚岩となって徹底・積み上げる＝誇りと責任

①　明確で達成しがいのある課題・ゴールの設定と成功体験の積み重ねによる達成感の実感

・確実なねらい　　・ゴールまでの見通し
・個の役割責任　　・交流や協働の場の工夫・必要感
・成功体験の積み重ねによる達成感及び確実な成長の実感、向上心の高揚
・GIGA の充実　　・個別最適・協働的な学習の進化・深化、客観的な評価の活用

②　何のための行事･取組かを明確に＝ことばを大切に使える子に←言語活動とその目的･評価の明確な共有

＝目的意識・相手意識を子どもと共有する　「何のために？」
＝「I メッセージ」の言える子に　「自分は～考える。～したい。なぜならば、…。」
＝子どもを育てる視点を共有し、評価と指導を一体化する
　行事の計画・中間評価・ふり返りには
　・ゴールの姿(つけたい力）を具体化したうえで、
　・子どもの成長とその理由、今後の手立てを　自覚化させる・認め合う・客観的評価の利用